

平成30年度 第2回豊山町生活支援体制整備協議体議事録

1 開催日時 平成31年1月29日(火) 午前10時00分～正午

2 開催場所 豊山町保健センター 2階 研修室

3 出席者

(1) 参加者

豊山町民生委員協議会	中西 正司
豊山町老人クラブ連合会	江崎 弘
傾聴ボランティア みみっこ	今村 一正
ケアプランセンター ビンズ	池山 豊子
豊山町商工会	二村 勲
豊山町社会福祉協議会	中野 弘恵
健康づくりリーダー	堀場 光代
豊山町シルバー人材センター	小出 理恵
豊山町生活福祉部保険課 高齢者・介護係	安藤 佳介

(2) 事務局

豊山町生活福祉部保険課長 兼 地域包括支援センター所長	横田 仁美
豊山町地域包括支援センター 社会福祉士主任	千葉 幸恵
豊山町地域包括支援センター 保健師主任	長友 妙子
豊山町地域包括支援センター 保健師	大関 沙依

4 議題

- (1) 介護支援ボランティアポイント事業実績報告、今後の検討課題について
- (2) 高齢者にとって必要な生活支援サービス、地域づくりについて

5 議事内容(要点筆記)

【司会】

本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。ただ今より平成30年度第2回豊山町生活支援体制整備協議体を開催させていただきます。

はじめに、保険課長の横田よりご挨拶申し上げます。

【保険課長】

おはようございます。お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、1月13日に行われました2市1町「消防出初式」につきまして、住民の皆様にご参加いただきまして、大変ありがとうございました。

さて、人生100年時代を迎えるにあたって、私達の生活スタイルやニーズも変わ

ってきています。これからの時代に沿ったニーズに関するご意見を、この場でいただけたらと思います。年数はかかるかもしれませんが、いただいたご意見を踏まえて、行政として取り組まなければならないことを着実に進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

会議に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。事前にお配りしました資料として、資料1「介護支援ボランティアポイント事業活動報告」、資料2「ボランティア対象活動一覧」、資料3「介護支援ボランティアアンケート結果」です。本日配布しました資料として「第2回豊山町生活支援体制整備協議体 次第」、「名簿」、「ボランティア活動内容」です。資料に不足等がございましたら、お申し出ください。

それでは次第2の「議題」に入ります。議題「(1) 介護支援ボランティアポイント事業実績報告、今後の検討課題について」について、事務局から説明いたします。

【事務局】

議題「(1) 介護支援ボランティアポイント事業実績報告、今後の検討課題について」について、資料1、2、3に基づき説明した。

【参加者】

介護支援ボランティアポイントの登録者側から見た評価については、何か聞いていますか。

【事務局】

交流会の時に、「ボランティアをして楽しかった」、「『ありがとう』と言われるのが嬉しい」などのご意見をいただきました。また、敬老会や環境フェスティバル等の町の行事では、ボランティアも参加者もどちらも町民なので、「知り合いの方に久しぶりに会えて良かった」という声をいただいています。今のところ、嫌な思いをしたという声は聞いておりません。

受入団体側である町の担当者からは、「手際が良く助かりました」と評判が良く、来年度も依頼を受ける予定です。

【参加者】

今のところポイント交換をされているのは3名ということですが、まだ交換されていない方は、ポイントが貯まっていないということでしょうか。それとも、貯まっているのに交換していないのですか。

また、来年度もポイントを持ち越しできるのかということについて、交流会で質問されませんでしたか。

【事務局】

ポイント交換については、交流会の時に改めて皆様にご説明させていただいています。交換が済んでいる方は、既にポイントがほとんど満杯になった方ばかりです。活動が3月末までであることから、3月から4月の間にポイント交換される方が多いのではないかと考えています。

ポイントの有効期限は4月末までで、持ち越しはできません。また、毎年ボランティア登録を行う必要があります。登録者に対しては、その2点について3月に再度ご

案内させていただく予定です。

【参加者】

資料1のうち「2. 活動先登録団体数」について、「介護保険施設」と「介護予防教室・町のイベント」で分けてありますが、それぞれにボランティア登録を行う必要はなく、どちらでも活動できるという解釈でよろしいですか。

【事務局】

はい。どちらでも活動していただけます。

【参加者】

男性の方が少ないとのことですが、男性は実際にどのような活動をされたのでしょうか。

【事務局】

町のイベントである敬老会と環境フェスティバルにおいて、駐車場誘導等を手伝っていただきました。また、グループのメンバーとして、介護保険施設において芸能披露を行っていただきました。介護保険施設に新たに1人でボランティアに行くのは、女性の方ばかりでした。

【参加者】

老人クラブでもボランティア活動についての話が出ていたと思います。先程、課長もおっしゃっていたように、人生100年の時代です。老人クラブには、高齢の親を介護している高齢の方もみえます。逆に、高齢となった自分の子を介護している親も私は知っています。高齢者は、今や介護する側でもあります。敬老会のような単発のイベントなら活動しやすいと思われそうですが、継続的な活動となると難しいのではないのでしょうか。気持ちはあっても、体がついていかないのです。そのような葛藤から、ボランティア活動への躊躇いが生じるのではないかと危惧しています。

【事務局】

ご意見をありがとうございます。老人クラブ等の活動は、ボランティアポイント事業とは異なりますが、一緒に地域づくりを進めていきたいと考えております。

【事務局】

現在、個人宅はボランティアポイント事業の活動先となっていません。ボランティアポイント事業とは別の件になりますが、一部の老人クラブの方より、地域の支え合いをどのように進めていけば良いのかというご相談を受けました。皆様が実際にどのような事に困っているのかをアンケートで聴き取ったところ、例えば女性の方は電球交換等に困っているという結果が出ました。そのような困り事を皆様もお持ちであるということを確認し合ったり、他にはどのような困り事があるのかということについてご意見をいただいたりして、一緒に地域づくりを進めていけたらと考えております。ただ、その活動についてポイントをつけるという段階には今のところ至っていません。

【参加者】

2通りのボランティアがあるということですか。

【事務局】

協議体は本来、皆様から地域づくり全般についてご意見をいただく場です。今回の

協議体では、ボランティアポイント事業を開始して間もないため、その話題が主になっていますが、その他のボランティア等についてもご意見をいただけたらと思います。

【参加者】

要するに、ボランティアポイント事業とは関係なく、老人クラブと協力してボランティア活動を検討し始めたということですね。

【事務局】

はい。

【参加者】

先程は事務局から、介護支援ボランティアポイント事業の実績報告を行っていただき、今後の検討課題として受入団体の拡大等があるとわかりました。

先程の老人クラブとの協働のお話については、議題「(2) 高齢者にとって必要な支援サービス、地域づくりについて」に含まれる内容でしょうか。

【事務局】

はい。議題「(2) 高齢者にとって必要な支援サービス、地域づくりについて」に含まれます。

【参加者】

受入団体の拡大については、近年は様々な介護保険施設でバイキング等のイベントを実施しており、ボランティアの需要が高まっているだろうと推測できます。現在の受入団体は、1団体を除いて町内の施設ばかりとなっていますが、近隣の町外施設も視野に入れて良いのではないのでしょうか。また、登下校時の見守り等の活動も、ポイントの対象にできないのでしょうか。ボランティア活動の実績を目に見える形にすることで、モチベーションの向上につながるのではないかと考えます。

【事務局】

今後、受入団体の拡大をしていきたいと考えています。既に行っている活動に対するポイント付与については、他の団体等との調整が必要になりますので、慎重に検討していけたらと思います。

【参加者】

「芸能披露」というボランティア内容は、何か特技がある方でないとハードルが高いように感じますが、「配膳・下膳」のような内容なら挑戦しやすそうだと感じました。そのように、多くの人にとって挑戦しやすいボランティア内容を提案していくことが大切だと考えます。

【参加者】

ポイントは、最低2年は繰り越し可能にすることはできませんか。1年ではポイントが貯まらない方もいらっしゃると思います。

【参加者】

繰り越し不可なので、2月にボランティア登録した方は1ヶ月間しか活動できないということになりますね。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

【参加者】

ボランティア登録者数は49名ということですので、町の規模から考えると多いのではないかと感じています。事業の拡大も大切だと思いますが、まずは2～3年、最低でも平成31年度末までは、現在のまま継続してみて評価するのも良いのではないかと思います。事業開始から現在までの約半年間、地域包括支援センターが事務局を担ってきていますが、登録者数が増えた時に、どこまでフォローしていけるのかが問題になってくると思います。その点について、約半年間を振り返ってみてどうでしょうか。事業を拡大し過ぎると、隅々まで手が届かなくなってしまうのではないかと懸念しています。

【事務局】

おっしゃる通り、まだ開始して約半年ですので、年間を通しての評価はできていません。皆様がどの程度活動するのか、活動に対してどの程度のフォローが必要なのか等について、まだ把握しきれていないのが現状です。また、3～4月にポイント交換が増えると思いますが、一度に多くの方から交換申請を受けるような状況は、まだ経験していません。

【事務局】

課題はコーディネートであると考えています。現在はまだ問題は生じていませんが、今後登録者数をもっと増やしていくとなると、コーディネートが今以上に難しくなってくると思います。個人宅へのボランティアも検討していきたいので、専属の組織が必要になってくる可能性があります。

【参加者】

今の登録者は、ある程度ボランティアのやり方等をわかっている方が多いと思います。そのため、事務局の介入が少なくても比較的スムーズに運んでいるのでしょう。しかし、登録者数が増えていくと、今のまま経過できるとは限りません。単に登録者数を増やせば良いのではなく、手が届く範囲で行っていくことも大切だと思います。

【事務局】

ボランティア登録を開始した1～2ヶ月後は、まだ実際のボランティア活動に結びついていませんでした。そのため、登録者に電話をかけて活動につなぐ等のコーディネートを行い、少しずつ活動者数が増えていったというのが実態です。アンケート結果からもわかるように、まだボランティア活動をしたことがない登録者もいらっしゃいますので、引き続きコーディネートを行う予定です。

来年度の末頃には1年間の実績が出て、今後の見込みも立てられるようになってきますので、その際にまた皆様からご意見をいただければと考えています。よろしくお願いたします。

【参加者】

資料1「介護支援ボランティアポイント事業活動報告」を見ますと、活動実績のない受入団体があります。また、8月に1度だけ活動実績のある受入団体がありますが、9月からは活動されていないということなのではないでしょうか。11月から実績のない受入団体もあります。

【事務局】

8月に1度だけしか実績がない受入団体については、活動内容が「芸能披露」であったためです。タイミングに応じてボランティアが必要となるので、継続的な活動内容ではありません。11月から実績のない受入団体は、「芸能披露」や「話し相手」等の活動内容です。「芸能披露」については先程と同様に単発のボランティアです。「話し相手」をしてくださっている方は、既にポイントが満杯になっており、活動は継続されていますがポイントを付与していないため、実績にはあがっていません。実績のない受入団体もありますが、受入団体側との調整を行っています。

【参加者】

わかりました。ありがとうございます。

【事務局】

それでは、次の議題に移ります。

議題「(2) 高齢者にとって必要な支援サービス、地域づくりについて」について説明した。

【参加者】

独居高齢者への支援が課題であると考えています。完全に独居の高齢者で閉じこもりだと、見守りがありません。そのような方は、今後増えることはあっても減ることはないと思われれます。

傾聴ボランティアでは、今年度、1件の独居高齢者宅に地域包括支援センターと訪問しました。ご本人の要望で、継続支援にはなりませんでしたが、独居の高齢者に対して、どのように介入し、どう支援していくかが大切です。地域としての見守りに広げていくのは難しいことですが、今取り組むべきことだと考えています。

【事務局】

今お話がありましたように、地域包括支援センターでは傾聴ボランティアの方と一緒に個人宅を訪問させていただきました。その際、個人情報等の取扱い等の約束事を記した様式を作成しました。ケアマネジャーの方をはじめとして、個人宅へのボランティアに対するニーズを聞いておりますので、今後活用していけたらと考えています。

【参加者】

「ヘルパーの方をお願いするほどでもないけれど困っている」という状況は、介護現場ではたくさんあります。そのような小さな困り事を解決できるような制度やサービスがあれば、非常に役に立つと考えます。

【参加者】

独居の高齢者の中には、ヘルパーもケアマネジャーも来て欲しくないという方もいらっしゃいます。しかし、そのような方でも、隣近所の方には心を許している場合があります。支援を受け入れてくれる可能性があります。地域での付き合いが広がっていくような仕組みづくりが必要なのではないかと考えています。

【参加者】

独居高齢者の情報等は、地区の民生委員と共有できているのでしょうか。民生委員は、問題が顕在化している住民に対しては支援できますが、閉じこもりの独居高齢者

や高齢夫婦世帯の問題に気づくことは難しいのが現状です。そのため、この協議体であがってきた問題を地区の民生委員と共有し、一緒に解決に向けて取り組むという動きをすれば、もう一歩進んだ支援につながるのではないかと考えています。

【事務局】

社会福祉協議会で実施している「ふれあい食事会」は、民生委員の方が独居高齢者に案内を配っていますが、社会福祉協議会では独居高齢者を把握しているのですか。

【参加者】

名簿は所持していますが、情報としては古いものです。

【参加者】

民生委員が高齢者宅に案内を配布した際に、独居でなくなっていれば、そのことを社会福祉協議会に伝えるはずですが。

【参加者】

独居でなくなった場合は、そのように把握できます。しかし、新たに独居になった方については情報が入って来ないのでわかりません。

【事務局】

町全体では独居高齢者数が増えているはずですが、社会福祉協議会が所持している名簿上からは、減る一方だということですね。

【参加者】

そういうことになります。時々、参加者の方が「あの人も独居だよ」と教えてくださって増えることはありますが、減る数の方が圧倒的に多いです。

【事務局】

ふれあい食事会の案内を配布する時に、簡単な健康チェックシートや、ガイドブックと一緒に配っていただくこと等はできないかと考えています。その際に得た情報を共有できるようにしたいとも考えています。

【事務局】

独居高齢者の中にも、支援を必要としていない人がいるのも事実です。しかし、今は良くて明日や明後日、1年後は支援を必要としているかもしれません。そのため、まずは独居高齢者に対して意識付けを行うことが大切なのではないかと考えます。地域でお互いに見守りや声かけを行うという体制づくりが必要であり、老人クラブや自治会等の力を借りて個々の訪問を行うことがその手段となります。訪問は時間も手間もかかる大変な作業ですが、足を運ぶことによって、信頼関係も生まれてきます。それによって、高齢者自らが支援の必要性を訴えることができるようになるのではないのでしょうか。たとえ初回の訪問で拒絶されたとしても、どのような方が住んでいるのかという情報を得ることができます。それは互いの関係性が一歩進んだということです。その仕組み作りは地域包括支援センターだけでは実現できませんので、様々な団体に協力していただけるよう、よろしく願いいたします。

【参加者】

話が戻ってしまいましたが、男性をボランティアに引き込むのは難しいと思います。

【事務局】

活動できそうな内容をアンケートで聞いたところ、男性の場合は力仕事が多く、女性の場合は家事や話し相手等が多いという結果になりました。男女で得意とする分野が違おうと思いますので、それぞれ合う内容が見つけれたらと思います。

【参加者】

集まらない層を一生懸命集めようとするよりも、集まりやすい層に働きかけて広めていくというのが効率的かもしれないと思いました。

【事務局】

先日、ある老人クラブの出前講座で、助けられ上手になることの大切さをお話させていただきました。高齢者の中には、客観的に見て支援が必要だろうと思われる生活を送っているのに「他人に関与されたくない」、「迷惑をかけたくないから支援はいらない」とおっしゃる方がいらっしゃいます。そして、そのような方が孤独死に至ってしまったり、重症化してから支援を受け入れてくれたりすることがあります。「助けてみなければ助ける側の気持ちはわからないし、助けられてみなければ助けられる側の気持ちはわからない」という言葉があります。お互いに助け合えるような地域を作っていけたらと考えています。

向こう3軒両隣の文化に関わってきますが、介護保険制度で位置づけられているサービス担当者会議に、両隣の方もご出席いただくのはどうでしょうか。例えば、ヘルパーの方が来ない曜日にゴミ出しの支援が必要ならば、その時に両隣の方が力になってくださるかもしれません。

【参加者】

理想的ですが、関係性によっては難しいと思います。介護保険サービスを利用していることについて、隣の人に知られたくないという方もいらっしゃいます。まずはモデルとなる対象者宅を選び、試してみるのが良いかもしれません。

【参加者】

小さな町ですから、隣近所のつながりを大切にし、地域での見守りにつなげていきたいです。

【事務局】

一部の老人クラブで地域づくりに関するアンケートを行いました。その結果、やはり地域での見守りが大切であるという結果が出ました。その老人クラブのお力を借りて、モデル地区として事業を実施できたらと考えています。その結果を他の地区にも情報提供することによって、地域の体制づくりが進むのではないかと検討している段階です。

【事務局】

地域包括支援センターで把握していないだけで、近所の方のお手伝いをしている方は何人もいらっしゃると思います。そのような方を見つけ出し、一緒に取り組めたらと考えています。また、地域の集まり等に来ない方に対する支援が特に課題ですので、成功例をつくり、口コミ等で少しずつ広まっていけば良いのではないかと思います。

【参加者】

確かに、外に出る方は元気な人が多いです。外に出て来ない方こそ支援を必要とし

ている可能性がありますので、隣近所の見守りが大切になってきます。

【参加者】

老人クラブや自治会を脱退する方は多くなっています。脱退する方の意見を聞くと、途中から来た方は、従来から住んでいる方の輪に入っていけないという声があります。もともと住んでいる方同士は、お互いにいろいろな情報を持っており、話も弾むようです。しかし途中から来た方は、それについて行けず、壁を感じてしまうのではないかと思います。無理矢理加入させることはできないので、新しい方々の集まりを新たにづくっても良いのではないかと思います。

【事務局】

老人クラブを脱退される等、気になる方がいらっしゃいましたら、地域包括支援センターで教室やサロンの紹介等を通じて支援していきたいので、情報提供をよろしくお願いいたします。

【事務局】

様々な角度から、多くのご意見をありがとうございました。今回いただいたご意見を活かしながら取り組んでいきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

【司会】

これで本日の日程はすべて終了しました。これをもちまして、平成30年度第2回豊山町生活支援体制整備協議体を終了します。ご協力ありがとうございました。